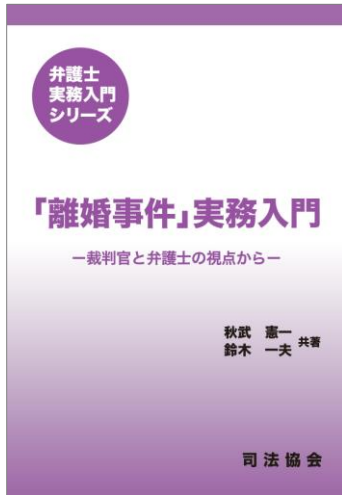


# 「離婚事件」実務入門 -裁判官と弁護士の視点から-



共著	:	秋武憲一・鈴木一夫
定価	:	2,860 円(本体 2,600 円+税 10%)
判型	:	A5 判
ページ数	:	240 ページ
ISBN	:	978-4-911236-02-4
発行	:	2024 年 12 月

## 内容

離婚事件に精通した元裁判官・弁護士により、実務経験の浅い弁護士に向けて、離婚紛争がどのようなものか、解決するために必要な民法、手続法の理解、紛争を解決するために検討すべき事項及びとるべき方法、依頼者に対する意向確認や説明をするときの留意事項などについて、裁判官、弁護士それぞれの視点から解説したもので、離婚に関する戸籍制度や、共同親権などの新たな法改正についても併せて説明されており、実務家が携行できる格好の解説書となっています。

## [目次](#)

## 目次(抄)

## 第1部 裁判官の視点から(秋武憲一)

## I章 離婚紛争について

- 第1 離婚紛争とはなにか
- 第2 離婚制度
- 第3 離婚の効果
- 第4 戸籍

## II章 離婚紛争の各論

- 第1 離婚紛争解決の基本原則
- 第2 離婚をめぐる紛争
- 第3 協議離婚
- 第4 離婚調停
- 第5 審判離婚・請求認諾離婚・和解離婚
- 第6 事実婚の解消
- 第7 離婚訴訟
- 第8 離婚訴訟の審理
- 第9 子どもの親権者および附帯処分

## 第2部 弁護士視点から(鈴木一夫)

## 離婚事件と弁護士

- 第1 離婚事件の流れ
- 第2 離婚を求める依頼者から受任する場合
- 第3 離婚を求められている依頼者から受任する場合
- 第4 離婚を翻意することを勧めること、離婚を勧めることの可否
- 第5 離婚調停において、不成立とするか調停でまとめるかの基準
- 第6 離婚を求められている依頼者が調停を申し立てられた場合
- 第7 離婚訴訟を提起した場合、相手方及び裁判所の反応から、和解するか、判決にするかの判断の基準と説明
- 第8 依頼者が離婚訴訟の原告の場合
- 第9 依頼者が離婚訴訟の被告の場合
- 第10 判決が言い渡された場合の対応(離婚請求認容と離婚請求棄却についての説明)
- 第11 離婚請求認容の場合、戸籍の届出等の説明
- 第12 親権者や監護者が問題となる場合の対応(共同親権制についての考え方)

資料 改定標準算定表

事項索引